

## 豊岡市記者配布資料

年月日	部課名	電 話	責任者 (役職名)
2023 年 4 月 17 日(月)	日高振興局 地域振興課	0796-21-9052 (内線 5405)	池内 章彦 (課長)

(件 名)

### 2023 年度植村直己のひと・こころを伝える企画展 「ジャパニ・エスキモーと呼ばれた冒険家、植村直己」の開催

(内 容)

市立植村直己冒険館では、2023 年度植村直己のひと・こころを伝える企画展の第 1 回展示として「ジャパニ・エスキモーと呼ばれた冒険家、植村直己」を次のとおり開催します。

1 開催期間

4 月 20 日(木)～10 月 1 日(日)

2 開催場所

市立植村直己冒険館 企画展示室(日高町伊府 785)

3 展示構成

- (1) 植村さんがシオラパルクに向かった背景(パネル)
- (2) シオラパルクでの生活や現地の人々とのかかわり(パネル)
- (3) 極地で生きる知恵と技術(パネル、装備品)
- (4) 犬ゾリ技術の習得(パネル、装備品)
- (5) 3000 km 犬ゾリ単独行のようす(パネル)

4 入館料

大人(高校生以上) 550 円

小人(3 歳以上) 330 円

※ミュージアムエリアのみ、どんぐり base への入館料は別途必要です。

《原画展に関する問合せ》

植村直己冒険館(岡本)

TEL 0796-44-1515

《植村直己顕彰事業に関する問合せ》

日高振興局地域振興課(山川)

TEL : 0796-21-9052(直通)

# 2023年度 第1回特別展示概要

2023. 4. 17 豊岡市立植村直己冒険館

名 称	2023 年度植村直己のひと・こころを伝える企画展
テ ー マ	ジャパニ・エスキモーと呼ばれた冒険家、植村直己
期 間	令和5年4月20日(木)～令和5年10月1日(日)
展示場所	豊岡市立植村直己冒険館 企画展示室
趣 旨	<p>1970年8月、五大陸最高峰登頂という目標を果たした植村直己さんは、次の目標を南極大陸横断に決めました。翌1971年の日本列島徒歩縦断、南極偵察行に続き、1972年9月からは南極横断に必要な犬ゾリ技術習得と環境順化のため、グリーンランド最北の村・シオラパルクに飛び込み、現地の人々と共同生活を送ります。現地の人々に敬意を持ち、その生き方から学ぶ姿勢は、冒険だけでなくひと・こころを伝える上で欠かせない要素です。そしてシオラパルクの生活で身に付けた知識・技術をもって、3000kmの犬ゾリ旅を成功させたことは、南極横断に向けた着実な前進でした。</p> <p>今回の企画展では、植村さんの最大の夢である南極冒険へのプロセスの第一歩となったシオラパルク時代の位置づけ、現地での生活や現地住民とのかかわり、そしてその中で植村さんが習得していった犬ゾリ技術、狩りや食事といった極地で生きる知恵などについてお伝えします。</p> <p>※「エスキモー」という呼称について 「エスキモー」という言葉は、16世紀ごろからグリーンランド、カナダ北部、アラスカ、シベリア北東部の先住民を指す呼称として使われていました。この呼称は一概に差別的というわけではないものの、1970年代以降、カナダ、グリーンランドの先住民については「イヌイト」を使うことが一般的になっています。しかし、植村さんがグリーンランド先住民に対し敬意をもって「エスキモー」と呼んでいたこと、また植村さんが接した先住民自身も「エスキモー」を使用していたことから、本展示では「エスキモー」という呼称を使用します。</p>
展 示 構 成	<ol style="list-style-type: none"><li>① 植村さんがシオラパルクに向かった背景（パネル）</li><li>② シオラパルクでの生活や現地の人々とのかかわり（パネル）</li><li>③ 極地で生きる知恵と技術（パネル、装備品）</li><li>④ 犬ゾリ技術の習得（パネル、装備品）</li><li>⑤ 3000km犬ゾリ単独行のようす（パネル）</li></ol>
展 示 品	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 植村さんが使用した装備品</li><li>・ イヌイトの生活道具、民芸品</li><li>・ 植村さんが家族や友人に宛てた手紙、南極大陸横断の計画書</li><li>・ 犬ゾリの一部</li></ul>
そ の 他	リーフレット配布